

# 自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
<b>I. 理念に基づく運営</b>	<b>22</b>
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>	<b>10</b>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
<b>III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>	<b>17</b>
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>	<b>38</b>
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
<b>V. サービスの成果に関する項目</b>	<b>13</b>
<b>合計</b>	<b>100</b>

## ○記入方法

### [取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

### [取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

### [取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

### [特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## ○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名 (ユニット名)	グループホーム加茂の郷 ハナミズキ
所在地 (県・市町村名)	雲南市
記入者名 (管理者)	知野見 真理
記入日	平成 21年 8月 1日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念と共有</b>			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	○	○その人らしい生活を地域の中でどのように支援していくかを、平易な言葉で表現し、職員や利用者・家族に伝えていきたい。
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	○	○『理念』としてではないが、ケアについての話し合いの中では、常に『理念』の内容が盛り込まれている。今後、理念を意識して、掘り下げて検討したい。
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	○	○具体的に「理念」を伝える方法を考えていきたいが、ご来園いただく中で、GHの雰囲気を感じてもらい、理念についての理解を図りたい。
<b>2. 地域との支えあい</b>			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	○	○園での行事に気軽に参加していただけるよう努力していくとともに、地域に出かけていくことも引き続き実施したい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる		○	○今後の課題である。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	○評価結果については職員に周知し改善点について話し合ってきた。ユニット会議では、項目ごとに自分たちの評価を考える機会を設けたが、全ての項目を協議するには時間が不十分であった。	○	○今後も継続していく。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	○前回の運営推進会議で取り上げられた課題について、その後の取り組みの経過報告を必ず行い、一つ一つ積み上げていくようにしている。		○運営推進会議を地域への情報発信の場ととらえ、大切にしていきたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	○担当者には、運営上の疑問点など、その都度問い合わせをし、丁寧に回答を得ている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	○必要と思われる方に対しては、管理職が対応している。	○	○今年度は園内研修を計画しており、その中にとり入れ、学ぶ機会を確保する。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	○研修会など参加し、他の職員に還元している。	○	○園内研修でもとりあげ、学習したい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	○契約に関する説明については時間をかけ、丁寧に行っている。特に料金・医療連携体制などについては、きちんと理解していただくよう努めている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	○利用者からの意見・要望は、ユニット会議や職員会議で話し合い、全員のものとしている。また、玄関に意見箱を用意し、皆さんからの意見が反映できる体制作りに努めている。なお、苦情処理については、経過を記録に残し、会議でも報告している。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	○家族の面会時には、必ず利用者の状況を伝え、他にも状態変化や受診の結果など、こまめに連絡するよう気をつけている。また、毎月1回、担当者から生活の様子をお便りにして家族に報告している。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	○家族の面会時、利用者の状況報告などに心がけ、家族とのコミュニケーションをはかっている。関係作りをすすめるなかで、家族の思いを汲み取れるよう努力している。	○ ○家族の気持ちとはどういうものなのかを職員と話し合うことを継続し、ご家族からいただいた意見をケアに反映していく。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	○特別に時間をとることは困難であるが、日常的に話をするようにしている。	○ ○施設長による職員面接を実施していく・
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	○利用者の状況変化に対応し、職員配置を考えている。また、現場の主任らがその場面ごとに適切な指示が出せるよう日頃から話し合っている。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	○職員の離職に伴い、内部体制の検討はその都度実施してきた。また、新しい職員は利用者きちんと紹介し、1ヶ月程度の見習い期間を設け、ケアがスムーズにできるよう配慮している。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)		(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	○研修会にはできるだけ参加する方針で取り組んでいる。園代表で研修会に参加することを意識づけ、会議での報告、現場での実践を進め、研修で得たものが全員のものとなるよう努めている。		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	○しまね小規模ケア連絡会、雲南地区GH部会へは積極的に参加している。また、研修会などを通じて、他のGH職員との交流も図っている。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	○職員間の人間関係に配慮し、不平・不満ではなく、改善点として意見が述べられるように促している。	○	○日常的に話をする機会を設けたり、親睦会などで交流を深め、活力が生まれるよう配慮したい。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	○資格取得に向けての支援を積極的に行っている。また、現場で利用者とかかわりながら、利用者・職員の状況把握に努めている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	○利用していただく前にはきちんと本人・家族に会い、生活の様子や本人の状況などをよく聞いている。また、施設見学も積極的に勧め、GHをよく知っていただくよう努めている。なお、家族に対してはGHで「できること」「できないこと」をきちんと伝えている。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	○利用していただく前にはきちんと本人・家族に会い、生活の様子や本人の状況などをよく聞いている。また、施設見学も積極的に勧め、GHをよく知っていただくよう努めている。なお、家族に対してはGHで「できること」「できないこと」をきちんと伝えている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	○相談内容としては、まず入居が前提のものがほとんどであり、入居できるか、できないかが話の中心となる。しかし、話をよく聴く中で、ご本人にとって何が一番良い状況なのかを一緒に考え、提案する努力はしている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	○入居を急ぐ家族が多いのが現状である。可能な方には施設見学を勧めている。また、本人の納得については家族の協力を得ながら、できるだけ混乱が少なくなるよう配慮している。		○デイサービスも開始し、今後通いながら馴染んだ環境で、入居希望があった際に入居にむずびつくことが出来ればと考える。
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	○一緒にできることは、声をかけたりお願いしたりして、生活場面の中に取り入れている。また、希望がかなえられるよう生活の中に本人の意見を反映している。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	○機会を見つけては、積極的に話をするように心がけている。本人の状況に応じて、スタッフのケアの取り組みや不安なこと・心配なことなども家族に伝え、一緒に考える中からヒントをいただくようにしている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	○面会時には、お茶などを用意してゆっくり過ごしていただけるよう配慮している。また、行事・外出にもできるだけ参加してもらえよう依頼している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	○これまでの生活の継続という点で、なかなか実行できない。家族の協力も得ながらすすめていきたい課題である。	○	○これまでの生活の継続という点で、なかなか実行できない。家族の協力も得ながらすすめていきたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	○利用者同士の関係性に配慮し、利用者同士で声をかけ合ったり、気の合う人と外出できるようにしている。また、場面に応じて見守ったり、職員が間に入るなどしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	○契約終了となった方・家族に対しては、継続的な関わりを実施できていないが、今年の納涼祭では、退去された方の曾孫さんが職場体験学習に来園するなど、懐かしい交流があった。	○	○契約終了事由を認識しながら、利用者・家族との関係を維持し、当園の良き理解者となってもらうよう努める。
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
<b>1. 一人ひとりの把握</b>				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	○言葉で表現される希望・要望だけでなく、生活場面の中から、本人の本当の気持ちや要望などを推し測る努力をしている。	○	○表面的なことにとられすぎて、本人の本当の思いの把握が不十分なことがある。職員間での情報交換を密にし、スキルアップを図りたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	○入居前調査では情報収集に努めるが、入居後、本人や家族との関係を築く中で、少しずつ新しい情報の収集をしている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	○生活リズムの把握に努め援助しているが、できないことに注目しがちである。	○	○利用者のできること・やりたいことの把握に努め、それらをGHの生活の中に積極的に取り入れていきたい。
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	○担当者がモニタリングを行い、カンファレンスで検討した後、職員会議で全体のものとしている。家族の意向はケアプラン説明の際、意見をいただくようにしており、本人の意見は日頃のかかわりの中から推しはかるようにしている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	○3ヶ月に1回の見直しを行っているが、本人の状況の変化に合わせ、その都度行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	○個別ファイルを用意し、日々の記録(食事量、排泄についてなどから行動、発言まで)をつけている。勤務前には必ずファイルに目を通すよう職員に義務付けている。また、記録用紙の検討も行い、ケアプランを意識して記録できるよう工夫している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	○受診については、家族の状況に配慮し、GHで対応している場合が多い。また、家族と一緒に受診も行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	○園内行事の際は、自治会へは参加を呼びかけており、ボランティアにも参加していただいている。また、年2回、消防署の指導のもと避難訓練を実施している。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている			
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	○運営推進会議に参加してもらい、情報交換している。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	○希望にそってかかりつけ医を継続している。家族の状況によって受診はGH対応としたり、往診を依頼したりしている。	○	○受診や往診の結果については家族にきちんと連絡をしている。今後、状態変化なども合わせて、より細やかにご家族への医療面での報告を実施していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	○言葉遣いや言葉がけの工夫など、会議で話し合っている。	○	○利用者との関係の中で、「慣れ」の部分が出てきたり、忙しさの中での職員のストレスから不適切な対応が見られることがある。職員会議などで意識の向上を図ると同時に、余裕のある体制作り努めたい。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	○生活の中で、利用者に決めてもらう場面を意識的に、また、多く作るようにしている。誕生会などでは、本人の希望(外食・外出・希望献立など)を取り入れ、個別対応を心がけている。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	○一日の流れは大まかに決まっているが、その日の調子や気分に合わせて柔軟に対応している。外出希望も出来るだけ応じられるようにしている。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	○自分で服を決める方には希望に応じた洋服の準備を手伝い、そうでない方も上下の衣服の組み合わせなど配慮している。		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	○調理・盛り付け・片付けなど、それぞれの利用者ができる場面に参加していただいている。また、職員は利用者と一緒に食卓を囲み、同じものを食べている。		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	○本人の嗜好で特に制限を設けることはない。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	○一人ひとりの排尿間隔をつかんでトイレ誘導を行い、自分でトイレに向かう方でも、さりげなく付き添い、排泄介助を行っている。また、排泄の状態に応じて、リハパンから布パンツへの移行をすすめる等その方にあったオムツ等の検討を行い、実施している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	○入浴は希望により実施しており、毎日入浴するしている方もいる。ただし、時間帯については、13:00～16:00の入浴時間となっている。	○	○夜間不眠の方に対して、足浴などを入眠前に取り入れるなど、気持ちよく休んでいただける取り組みを考えていきたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	○一人一人の状態に合わせて、休息の声がけなどしている。夜間、不眠の際は、飲み物を用意して付き添うなど、気持ちの安定を図るよう努めている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	○日々の生活の中で、その人にあった(好みの)仕事を依頼し、感謝の気持ちを伝えている。園内での行事の準備も、出来るところは一緒に行っている。	○	○生活の中での役割分担は継続していきたい。行事などについては、利用者が積極的に意見を言えるような働きかけをしていく。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	○自分でお金を管理したい方は、事務所で預かり金とは別に自分で財布を持っている。外出などの際も、その財布から支払いをすることが多い。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	○外出、買い物、ドライブなど希望をとり入れながらとりにくんでいる。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	○今後取り組んでいく課題であると考えている。	○	○今後取り組んでいきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	○電話は本人の希望の際に利用してもらっており、必要な方にはダイヤルを押すなどの援助をしている。また、個人用の葉書を用意し、希望にそようになっている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	○面会時間の制限など特に設けておらず、一緒にお茶や食事をとっていただくことも多い。また、遠方から帰られた家族や希望の方には泊まっていただくことも可能である。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	○身体拘束は行っていない。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	○日中は鍵をかけず、夜間は戸締りとして鍵をかけている。ただし、居室から外へ出入りされ、転倒・骨折の危険のある方については、日中も窓の鍵は使用している。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	○日中はホールに必ず一人は職員がいるようにして、利用者の見守りをしている。また、夜間は1回/時間で巡回するとともに、夜勤者はホール中央に待機し、その都度対応している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	○洗剤やハイターなどは、鍵のかかる場所に保管している。包丁などは、調理の際は利用者に使っていただくが、使用後は食洗機の中に片付けるようにしている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	○ヒヤリハットはその都度記録に残し、職員会議で確認しあっている。また、今年は昨年度の年間の記録の集計をし、検討をすすめてきた。火災の避難訓練は2回/年、消防署の指導の下で実施している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	○緊急時の対応マニュアルを作成し、全職員に配布し、周知徹底を図っている。また、今年度は救急法の講習会を計画し、消防署の方にご指導いただいた。	○	○継続して取り組んでいく。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	○火災の避難訓練は消防署の方にご指導いただき、2回/年で実施している。また、地域の方にも参加していただいたこともあり、今後も声をかけていきたい。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	○リスクについては家族と話し合い、ケガなどがあれば、その都度、報告と詳しい状況説明をするとともに、再度リスクの確認をしている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	○日々のバイタルチェックは必ず行う。いつもと様子の異なる時は、その都度バイタルチェックを行い、必要であれば医療受診を行っている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	○処方箋は個人カルテにいつでも見られるようにファイルしてある。また、服薬は一人一人に手渡しして、きちんと服用したことを確認している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	○繊維の多い食材や乳製品を献立に取り入れている。また、排便チェックを行い、適切な下剤の使用に努めている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	○毎食後の口腔ケアについては声かけを行い、個々に適切な歯ブラシ(吸引機能付きの物等)を用意し、援助している。また、抵抗のある方には無理強いをせず、できる範囲で実施している。その他、定期的な義歯消毒の実施も行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>○個々の食事摂取量を記録にのこし、摂取量が少ない方には栄養補助食品などをすすめる等配慮している。</p>	
78	<p>○感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>	<p>○感染症予防マニュアルを作成し、職員に周知している。排泄物処理など、塩素系漂白剤も使用しながら、注意して行っている。また、2回/日トイレ・手すりの消毒を行っている。</p>	
79	<p>○食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている</p>	<p>○台所や調理器具の衛生については、掃除や漂白など清潔に心がけている。</p>	
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</p>			
<p>(1)居心地のよい環境づくり</p>			
80	<p>○安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている</p>	<p>○玄関前にはベンチやプランターを置いたり、玄関には花を生けたりと、優しく明るい雰囲気となるよう工夫している。</p>	
81	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>○コタツや扇風機など季節のものを使用している。また、季節感のある壁面装飾など心がけている。</p>	
82	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>○籐のテーブルセット、ソファ、マッサージ機など共用のスペースに配置して、空間に仕切りを作っている。また、テーブルではみなさん自分の決まった椅子(場所)があり、くつろいで過ごすことができる。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	○自分の使い慣れたものを居室に持ってきて使っている。また、家族に、本人希望の品を用意していただくこともある。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	○朝の掃除のときは一斉に換気を行うとともに、トイレ内は窓の開閉、換気扇、消臭剤などの使用で悪臭が出ないようにしている。		
<b>(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	○ホールや浴室、トイレの手すりの設置や車椅子の準備など、残存機能を生かした工夫と安全な環境作りに配慮している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	○場所や居室の表示を行い、利用者が混乱しないよう工夫している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	○畑、プランターを整備し、利用者に関心をもってもらえるようにしている。また、ベンチ、ウッドデッキなどもあり、日向ぼっこなどに使用している。また、敷地内は、散歩していただけるだけの十分なスペースがある。		

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)